

小泉八雲熊本旧居

ギリシャ系アイルランド人を先祖に持つ英国人作家ラフカディオ・ハーン（1850-1904）は、熊本大学の前身である第五高等中学校での英語教師 1 年目であった 1891 年、この家に住んでいました。島根県の松江で来日後の 15 カ月間を過ごしたハーンにとって、熊本は日本で生活する 2 つ目の城下町となりました。

第五高等中学校には職員用の宿舎がありましたが、ハーンは畳の部屋がないことを知り、それを拒否しました。彼はこの家を月 11 円で借りていましたが、この金額は月給 200 円という贅沢な給料のごく一部に過ぎませんでした（これに 1 万を掛けた数字が現在の通貨での大まかな金額です）。

大きな畳の間が 7 部屋あるこの家は、下級武士の赤星晋作が所有していました。中には、ハーンが家主を説得して作ってもらった神棚があります。ハーンは毎朝ここでお祈りをしていました。彼の著書『Glimpses of Unfamiliar Japan（知られぬ日本の面影）（1894）』には、「The Household Shrine（家庭の祭壇）」という章があります。奥の部屋にはハーンが仕事に使っていたとされる机があります。ハーンはここに住んでいる間は著作活動をしていませんでしたが、『Out of the East: Reveries and Studies in new Japan（東の国から）（1895）』と『Kokoro: Hints and Echoes of Japanese Inner Life（心）（1896）』は、熊本がテーマとなっています。

ハーンは生前、日本文化の解説者として海外で知られていましたが、日本で有名になったのは、1920 年代に怪談集が日本語に翻訳されてからのことです。